兵庫県のゴミムシダマシ（5）

（兵庫県甲虫相資料・261）

高　橋　壽　郎*

47. ***Derispia maculipennis*** **(Marseul,1876)**

クロホシテントウゴミムシダマシ

Marseul 氏 (1876) が "Niphon (Hiogo,Mai-ya-san)" 産の標本により *Diaperis*? として記載した種である。Lewis 氏 (1894) は，この *D.maculipennis* をタイプとして *Derispia* 属を創設した。

飯田氏 (1942) は生態の一部を報告した（昆虫界，Vol. 10,No.102,p.498-500）。中根博士 (1950,1963) の図説があり，幼虫については，黒佐博士 (1959) の報告がある。宮武博士 (1961) はこの類を再検討した。さらに，中條・安藤両氏 (1985) の図説もある。

分布は，本州・四国・九州・対馬，トンキンとなっている。　幼虫は石に生じたコケ類・チイ類を食べ，7 月上旬ごろコケの下などで蛹化する。したがって神社，墓地等の石には普通にみられる種である

産地：川西市笹部〔仲田，1978，1982〕。Hiogo, Mai-ya-san〔Marseul,1876〕。神戸市布引 (4exs.,17,V,1952)，太山寺 (1ex.,6,Ⅵ,1957)，藍那 (4exs.,27,Ⅵ,1978)，芦谷渓谷 (1ex.,5,Ⅵ,1982)，森林植物園 (1ex.,14,Ⅵ,1986)。飾磨郡雪彦山 (3exs.,14,Ⅶ,1957)。多可郡三谷 (1ex.,19,Ⅳ,1975;1ex.,26.Ⅷ,1975)。神崎郡大河内町川上 (3exs.,18,Ⅵ,1977)。相生市三濃山 (2exs.,3,V,1974; 1ex.,18,V,1974)。宍粟郡福知渓谷 (1ex.,3,Ⅵ,1975,M. Yuma leg.;2exs.,20,Ⅶ,1976) 音水 (3exs.,20,Ⅶ,1959;2 exs.,20,Ⅶ,1969;1ex.,10,V,1970;9exs.,16,Ⅶ,1972;1ex.,5, Ⅷ,1973)，坂の谷 (1ex.,22,Ⅶ,1979)。氷上郡〔山本，1958〕。出石郡出石町福住〔高橋，1963〕。豊岡市伊賀谷〔高橋，1975〕。城崎郡日高町奈佐路 (3exs.,22,V,1986)。美方郡扇ノ山〔辻，1963；辻，岸田，1972；高橋，1975〕。

48. ***Leiochrodes convexus*** **Lewis, 1894**

クロテントウゴミムシダマシ

Lewis 氏 (1894) が，"Nagasaki and Kioto. Occurs under damp decaying leaves in early spring" を産地として，図を入れて記載している種である。Pic 氏 (1921) の *L.subovatus* は本種のシノニムである。

宮武博士 (1961) はこの仲間の再検討をしている。中根博士 (1963) の原色図説があり，中條・安藤氏 (1985) も原色で図説している。

分布は，本州・四国・九州・対馬・屋久島，台湾，フィリピン，インドである。

兵庫県下では記録がほとんど無い。小さいので調査不十分のようである。

産地：川辺郡猪名川町槻並 (1ex.,2,Ⅶ,1978)。川西市大和〔仲田，1970，1978，1982〕。神戸市烏原 (2exs 30,Ⅵ, 1984)。

49. ***Leiochrodes masidae*** **Nakane, 1963**

キイロテントウゴミムシダマシ

中根博士 (1963) が，"Miho,Naka-gun,Shimane" 産の標本によって，記載した種である。赤褐色で，触角端半は暗褐色。頭部に点刻を欠く。同博士 (1963) による原色図説がある。

兵庫県下の記録は今まで全く無かった。この種も小さいので調査不十分なのであろう。

産地：美嚢郡吉川町 (1ex.,11,Ⅶ,1985)。

50. ***Leiochrinus satzumae*** **Lewis, 1894**

テントウゴミムシダマシ

Lewis 氏 (1894) が，"Yuyama,Hitoyoshi,Fukaho-ri,and Nara" を産地として図をつけて記載した種であり，さらに "Many examples beaten from foliage in which dead branches and twigs were intersperse d" と記述している。

河野博士 (1950) の図説，中根博士 (1950，1955，1963) の図説，宮武博士 (1961) の研究，中條・安藤氏 (1985) の図説などがある。

分布は，本州・四国・九州・対馬，インドシナである。

広く産して，個体数も割合に多い種のようであるが，兵庫県下からは全く記録が無かった。この種も小さいから注意が払われていないと考えられる。

産地：城崎郡日高町奈佐路 (1ex,.19,Ⅵ,1986)。

51. ***Lyphia exigna*** **Marseul, 1876**

ホソヒメコクヌストモドキ

Marseul 氏 (1876) が，"Hiogo" を産地として記載した種である。中根博士 (1949) の図説，中條・安藤

* 神戸市兵庫区氷室町 1 丁目44

氏（1985）の図説がある。

その後，原産地の兵庫県でも全く採集されていないし，他の地域の記録も見られない。調査を要する種である。

産地：Hiogo〔Marseul,1876〕。

52. ***Tribolium*** castaneum（Herbst,1797）

コクヌストモドキ

Herbst氏（1797）が，ヨーロッパ産の標本によって*Colydium*属で記載した種である。Marseul 氏（1876）は *Tribolium ferrugineum* Fabricius を本種のこととし，湯浅・河野博士（1950），林博士（1959,1966）もこれにならっているが，現在では，Gebien氏（1919）の提唱した *Tribolium*(*Tribolium*)*castaneum* が使用されている。

湯浅・河野博士（1950）の図説，林博士（1959,1966）の幼虫の図説，中根博士の図説（1963），中條・安藤氏の図説（1985）がある。

分布は，世界各地。

小麦粉など穀粉類の著名な害虫とされているが，兵庫県下での記録はそれほど多くない。注意が足りないと考えられる。

産地：川西市大和〔仲田,1970,1978,1982〕。神戸市烏原（1ex.,30,Ⅳ,1974;1ex.,24,Ⅴ,1974;1ex.,14,Ⅶ,1975;18exs.,22,Ⅴ,1984）。氷上郡〔山本,1958〕。出石郡出石町〔高橋,1963〕。城崎郡香住町小原〔高橋,1975〕。

53. ***Palorus ratzeburgi*** Wissmann,1848

ヒメコクヌストモドキ

Wissmann 氏（1848）によって記載された種である。Marseul 氏（1876）が"Kiu-Sui(Nagasaki)"産の標本によって *Hypophlaeus floricola* として記載した種は本種のとこである。中根博士（1949）は *Caenocorse* 属で取り扱ったことがある。

中根博士（1949,1963）の図説，林博士（1966）の幼虫の図説，中條・安藤氏（1985）の図説がある。

分布は，本州・九州，ヨーロッパ，北アメリカなど。

兵庫県下での記録がほとんど無い。樹皮下や穀粉にみられるというのであるから，調べ方が足りないのだと考えられる。

産地：神戸市烏原（1ex.,10,Ⅴ,1984），城崎郡香住町小原〔高橋,1975〕。

54. ***Uloma bonzica***（Marseul,1876）

ヨツコブゴミムシダマシ

Marseul 氏(1876)が，"Kiu-Sui(Nagasaki)"産によって記載した種である。Lewis 氏（1886）が *Uloma latimanus* Kolbe の学名で"Miyanoshita,Hakone and Chiuzenji, Common."と記録したのも本種のことである。なお，本種には ssp. *hikosana* Nakane,1956（本州・九州）と ssp. *robustior* Nakane,1956（九州）の2亜種が記載されている。前者は小型で細かく，赤褐色で，上翅間室の点刻が強く，後者は黒色で，足は赤味がかり，前側板の皺状点刻が多い，となっているが，「多数の標本を並べると基亜種に吸収されてしまうようである」ともされている（中條・安藤,1985）。

中根博士（1949,1956,1963）による図説，湯浅・河野博士（1950）の図説，中條・安藤氏（1985）の図説がある。

分布は，北海道・本州・四国・九州・対馬・屋久島・琉球，朝鮮半島である。

兵庫県下にも広く分布しているようである。成虫も幼虫も朽木の中に多い。

産地：川西市見野，大和，笹部〔仲田,1970,1978,1982〕。伊丹市〔河上,1984〕。西宮市船坂（4exs.,4,Ⅸ,1987）。神戸市二十渉(3exs.,26,Ⅵ,1955)，丹生山(1ex.,5,Ⅴ,1956)，烏原（1ex.,18,Ⅷ,1974），広野（1ex.,10,Ⅳ,1955），木津（1ex.,30,Ⅴ,1984;2exs.,26,Ⅺ,1984），藍那（2exs.,20,Ⅳ,1987），箕谷（1ex.,9,X,1989）。三木市大村（1ex.,12,Ⅱ,1981），口吉川（1ex.,16,Ⅴ,1986;1ex.,7,Ⅴ,1986;1ex.,14,Ⅶ,1986），口吉川町笹原（2exs.,26,Ⅸ,1986;3exs.,3,X,1986），大村（5exs.,10,Ⅴ,1990）．美嚢郡吉川町奥山（3exs.,17,Ⅴ,1986;1ex.,19,Ⅶ,1986)。加西市畑（2exs.,27,Ⅶ,1974)。小野市山田（4exs.,17,Ⅸ,1987）．加東郡社町三草（7exs.,16,Ⅳ,1987;1ex.,7,Ⅴ,1987;3 exs.,1,Ⅵ,1989），東条町森（1ex.,29,Ⅳ,1984;3 exs.,18,Ⅴ,1984;2exs.,7,Ⅵ,1984)。多可郡加美町三谷（3exs.,29,Ⅳ,1974;1ex.,13Ⅸ,1975）。鳥羽（1ex.,8,Ⅴ,1965）。竜野市神岡町（1ex.,21,Ⅶ,1988）。相生市三濃山（2exs.,3,Ⅴ,1969;6exs.,28,Ⅳ,1974;1ex.,8,Ⅵ,1974）。宍粟郡福地渓谷（1ex.,20,Ⅵ,1976），音水（1ex.,10,Ⅷ,1975;1ex.,10,Ⅴ,1970;2exs.,11,Ⅷ,1978）。氷上郡〔山本,1958〕，山南町（1ex.,5,Ⅶ,1990;2exs.,11,Ⅶ,1990)。出石郡但東町矢根〔高橋,1963〕。豊岡市九日市〔高橋,1975〕，日高町奈佐路（22exs.,22,Ⅴ,1986）。養父郡氷ノ山（1ex.,27,Ⅶ,1956;1ex.,21,Ⅶ,1985）。美方郡扇ノ山〔辻,1963；辻・岸田,1972〕。

55. ***Uloma excisa lewisi*** Nakane,1956

ヤマトエグリゴミムシダマシ

原亜種 *excisa* ミナミエグリゴミムシダマシは台湾産で，Gebien氏（1913）により記載された種である（Arch. f.Naturg.79,A,a:24-25.fig.7）。日本の本州に産するものは中根博士（1956）によって *lewisi* として亜種の取り扱いをされた。タイプには青森県八戸産♂，河内金剛山産♀の他に日本各地の多くの標本が用いられている（Sci.Rep.Saikyo Univ. 2, Ⅲ:A 167-168）。原亜種に比べるとややがっちりしていて，前側板に薄くいくらか

合一した点刻を有し，強く皺状あるいは隆線状である。前胸背の中央付近の点刻は一般にはっきりしていて，前方のものより明らかである。♂の前脛節は長く，基部近くの内縁において明らかに截形に刻目がある。表面は浅い点刻で合流しない。前胸背のくびれの後方にある1対の隆起は多少横長である。

中根博士（1963）の図説，中條・安藤氏（1985）の図説がある。

兵庫県下でも広く分布している種である。

産地：川西市大和，笹部〔仲田，1978，1982〕神戸市平野（6exs.,25,V,1985），山の街（3exs.,9,Ⅶ,1961），藍那（1ex.,27,Ⅸ,1978;1ex.,16,Ⅶ,1979），長待山（1ex.,7,V,1982）。三木市細川中（2exs.,26,Ⅶ,1985）。加東郡社町三草（3exs.,22,V,1989）。多可郡鳥羽（1ex.,6,Ⅸ,1975）。相生市三濃山（3exs.,3,V,1969;5exs.,28,Ⅳ,1974;2exs.,3,V,1974）。佐用郡大撫山（1ex.,15,Ⅸ,1971）。多紀郡西紀町（5exs.,20,Ⅳ,1982）。城崎郡日高町奈佐路（5exs.,25,X,1985）。

56. *Uloma marseuli* Nakane,1956

エグリゴミムシダマシ

中根博士（1956）により，奈良，会津産の♂♀，その他日本各地産の多数の標本をもって記載された。*U. exisa* に似るが，体が小さく，色がやや薄く，♂交尾器の形状が異なるとされている。

中根博士（1963）の原色による図説，中條・安藤氏（1985）による原色図説があり，林博士は幼虫を図説している（1968）。

分布は，本州・四国・九州・佐渡・伊豆諸島（三宅島）・対馬である。

暖地性の種で，アリが巣をつくっている石の下や枯木の腐朽部にほぼ一年中見られる。

兵庫県下にも広く分布している。

産地：三原郡慶野松原（4exs.,26,V,1983）。洲本市先山〔宮武，1973〕。川西市見野，笹部，横地〔仲田，1978，1982〕。神戸市一王山（3exs.,22,Ⅳ,1978），山の街（3exs.,9,V,1961），藍那（1ex.,10,V,1949;2♂,♀,10,Ⅺ,1981），妙法寺（2exs.,26,I,1979;1ex.,23,Ⅵ,1979;1 ex.,22,Ⅱ,1979;1ex.,25,Ⅶ,1979;1ex.,Ⅷ,1979），森林植物園（2exs.,14,Ⅵ,1986）。加西市畑（2exs.,27,Ⅶ,1974）。三木市細川中（1ex.,30,V,1985），口吉川町（2exs.,22,V,1986）。小野市山田（3exs.,17,Ⅸ,1987）。美嚢郡吉川町（1ex.,6,Ⅵ,1985）。加東郡東条町森（1ex.,7,Ⅵ,1984），社町三草（2ex.,16,Ⅳ,1987;1ex.,24,Ⅵ,1987）多可郡三谷（1ex.,24,V,1975;1ex.,8,Ⅵ,1975;1 ex.,13,Ⅸ,1975）。相生市三濃山（3exs.,3,V,1969;3exs.,28,Ⅳ,1974）。赤穂市天和（1ex.,25,Ⅸ,1974）。宍粟郡福知渓谷（1ex.,20,Ⅵ,1976）。多紀郡西紀町（8exs.,20,Ⅳ,1982）。城崎郡日高町（1ex.,25,X,1985）。美方郡扇ノ山〔辻，1963；辻・岸田，1972〕。

57. *Alphitobius diaperinus* (Panzer,1797)

ガイマイゴミムシダマシ

Panzer氏（1797）により，ドイツから *Tenebrio* 属として記載された種である。日本からは，Marseul氏（1876）が，*Alphitobius* 属として "Kiu-Sui(Nagasaki)" を産地に記録した。

中根博士（1949，1963）の図説があり，林博士（1966）は幼虫を図説している。中條・安藤氏（1985）の図説もある。

分布は，本州・四国・九州・琉球，台湾，インドシナなど世界各地。

成虫，幼虫ともコムギ，トウモロコシなどの穀粉類を食べ，飼料倉庫などに多く見られる種である。兵庫県下でも，もっと見つかりそうなものだが，調査不充分のようである。

産地：川西市大和〔仲田，1982〕。神戸市鳥原（1ex.,8,Ⅷ,1976）。豊岡市加陽〔高橋，1975〕。

58. *Alphitobius laevigatus* (Fabricius,1781)

ヒメゴミムシダマシ

Fabricius 氏(1781)によって，*Opatrum laevigatum* として記載された種である。同氏（1801）はさらに *Akis leavigata* としてインドから記録している。Kraatz 氏（1865）は *Hyperops* 属で記録している。三輪博士（1931）は台湾から *Alphitobius laevigatus* として記録している。

中根博士（1963）の原色図説があり，林博士（1966）は幼虫を図説している。中條・安藤氏（1985）の図説もある。

分布は北海道以外の日本全域、台湾，中国，インドシナ，インドなど世界各地である。

この種も貯蔵穀類の害虫として知られている。前種に似るがやや小さい。本種も調査不充分のようである。

産地：加西市畑（1ex.,27,Ⅶ,1974）.

（未完）

〔訂正〕 前報（4），34. クロオビキノコゴムシダマシの解説，3行目，最後の属名，*Alptydema*（誤）→ *Alphitophagus*（正）.